

脳神経外科

■ 1年次の研修目標

基本的診察法

- 基本的診察法 (1)
必要に応じて診察し、所見を正確に把握できる
1. 面接態度と技法 2. 全身の診察能力 3. 神経学的診察能力
- 基本的診察法 (2)
必要に応じて適切に文書を作成し、管理できる
1. 診察記録、処方箋、指示書 2. 診断書、検案書、各種証明書 3. 診療情報の提供（紹介状と返書）

脳卒中の初期診療

- 1. 臨床症状（診断基準、脳卒中スケール）
(1) NIH脳卒中スケール (2) 日本脳卒中スケール
- 2. 画像診断
(1) CT検査を行い、診断できる (2) MRI撮像法を理解し、結果を診断できる

■ 2年次の研修目標

基本的検査

- 基本的検査法 (1)
必要に応じて自ら検査を実施し、結果を解釈できる
1. 腰椎穿刺 2. 脊髄造影 3. 脳血管造影 4. 脊髄血管造影
- 基本的検査法 (2)
適切に検査を選択・指示し、結果を正しく解釈できる
1. 超音波検査（頸動脈領域） 2. X線検査 3. CT検査 4. MRI検査
5. 核医学検査 6. 脳波検査 7. 脳誘発電位検査

救急医療

- 基本的診察 救急患者を的確に診断し、所見を把握できる
1. バイタルサインのチェック 2. 病歴聴取 3. 緊急処置の判断 4. 小児の特殊診療
5. 全身的重症患者の診断
- 基本的検査 適切に緊急検査を実施し、結果を正しく解釈できる
1. 一般検査 2. 心電図 3. X線写真撮影 4. CT撮影とMRI撮影 5. 髄液検査
- 基本的手技 適切な緊急処置を実施できる
1. 創傷処置（消毒、縫合） 2. 採血法（静脈血、動脈血） 3. 注射法（皮内、皮下、筋肉、静脈内）
4. 気道確保（気管挿管、気管切開） 5. 人工呼吸 6. 直流除細動 7. 胃管挿入、胃洗浄
8. 腰椎穿刺 9. 動脈穿刺 10. 大量出血処置

脳卒中の初期診療

- 1. 臨床症状（診断基準、脳卒中スケール）
 - (1) NIH脳卒中スケール
 - (2) 日本脳卒中スケールを用いた評価を実施できる
- 2. 画像診断
 - (1) 頭部CT検査、MRI検査の結果を読影できる
 - (2) 血管撮影を行い、結果を読影できる
 - (3) SPECT、負荷SPECTの結果を理解できる
 - (4) PET検査の意義を理解できる
 - (5) 超音波検査の意義を理解し、結果を判定できる
- 3. 治療方針
 - (1) 薬物療法の有効性と副作用
 - (2) 手術療法の選択基準

基本的手技（手術）

脳神経外科特有手技の方法に習熟し、その問題点を理解した上で、適応を検討できる

- (1) 手術時の患者体位
- (2) 頭部の位置と固定法
- (3) 皮膚切開と止血法
- (4) 筋膜、筋肉、骨膜の切開と剥離
- (5) 穿頭、開頭、硬膜切開
- (6) 副鼻腔（前頭洞など）・乳突蜂巣開放時の処理
- (7) 脳室穿刺（前角、後角）
- (8) バイポーラーによる凝固止血法
- (9) 吸引管の使用法
- (10) 脳の牽引方法、脳ベラの使い方